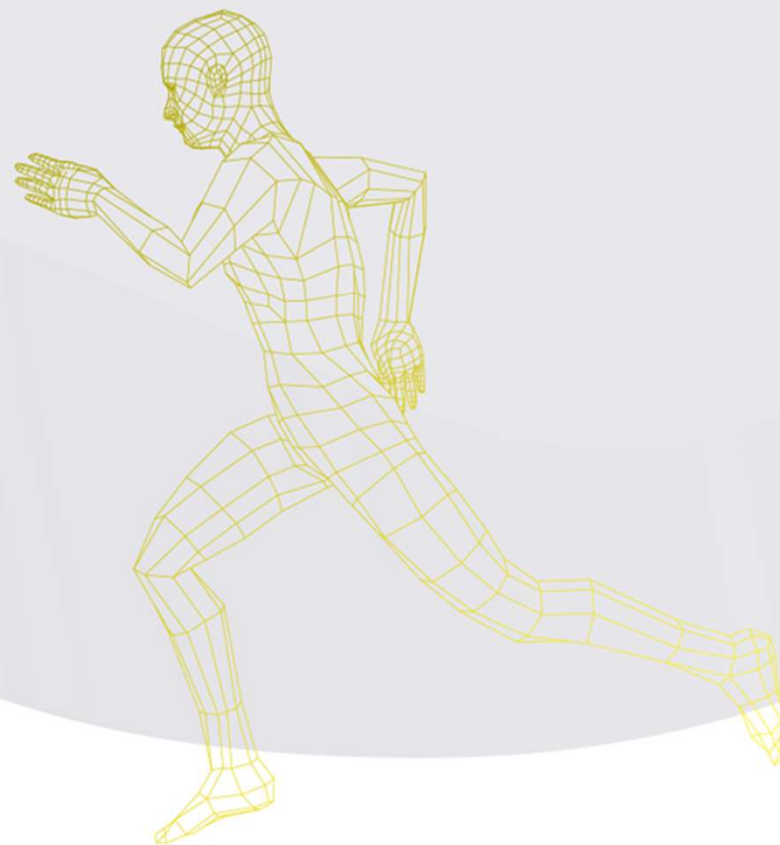


Egg ×
Something =

「タマゴテック」でライフスタイルの殻を破る



福証IRフェアオンライン



イフジ産業株式会社

Liquid egg / Frozen egg / Egg White Protein



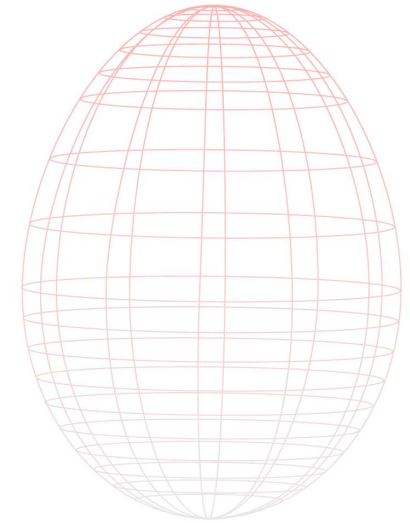
証券コード：2924



イフジ産業について

タマゴテックについて

業績について



■ 会社名	イフジ産業株式会社
■ 事業内容	液卵関連事業 93.7% (液卵・冷凍卵等の製造・販売、プロテインの販売) 調味料関連事業 6.1% (業務用粉末・顆粒調味料等の製造・販売) その他 0.2% (太陽光発電事業)
■ 設立	1972年 (昭和47年) 10月
■ 本社所在地	福岡県糟屋郡粕屋町戸原東2-1-29
■ 従業員数	462名 (イフジ産業414名、日本化工食品48名) ※臨時従業員324名を含む
■ 代表取締役	藤井 宗徳
■ 資本金	455百万円
■ 発行済株式数	8,345,370株 (内、自己株式133,606株)
■ 単元株式数	100株
■ 上場取引所	東京証券取引所 スタンダード 福岡証券取引所 本則市場
■ 証券コード	2924
■ グループ会社	日本化工食品株式会社

経営理念



■液卵とは

鶏卵を割って中身を取り出したものです。当社では様々な方法による殺菌処理や、卵黄・卵白の分離を行った製品を主力としています。さらには、お客様の用途に合わせて製菓特性や調理特性を持たせる加工を行っています。

全国のパン、菓子、マヨネーズ等の幅広い加工食品の原材料として使用されています。



■液卵を使用する5つのメリット

1.作業効率アップ

割卵の手間が省けて衛生的

2.品質の安定化

製品の均一化を図ることができる

3.経済性

原料費の安定

4.貯蔵性

凍結により長期保存が可能

5.作業環境

保管と輸送の効率化・二次汚染の防止

■液卵・冷凍卵の種類・用途

品 種	種 別	殺菌有無	冷蔵・冷凍	主 な 用 途
全 卵	ホール	未殺菌	冷蔵	どら焼き・カステラ・厚焼き玉子
	全卵	殺菌・未殺菌	冷蔵・冷凍	洋菓子・和菓子・パン・厚焼き玉子
	加糖全卵	殺菌	冷蔵・冷凍	洋菓子・パン
	加工全卵	殺菌	冷蔵・冷凍	ビスケット・クッキー・パン
卵 黄	卵黄	殺菌・未殺菌	冷蔵	アイス・カスタード
	加糖卵黄	殺菌	冷凍	アイス・カスタード
	加塩卵黄	殺菌	冷凍	マヨネーズ・ドレッシング
卵 白	卵白	殺菌・未殺菌	冷蔵・冷凍	練り製品・洋菓子・和菓子
	製菓用卵白	殺菌・未殺菌	冷凍	洋菓子・和菓子
冷凍食品	茶わん蒸しベース	殺菌	冷凍	茶わん蒸し・出汁巻き玉子



原料調達

※画像はイメージ

・当社は養鶏場を保有しておらず、全国約500社の契約委託養鶏場から鶏卵原料を調達。

イフジ産業

割卵・殺菌・充填

液卵・冷凍卵

ボイル
脱殻
殺菌

ゆで卵

食品メーカー

※画像はイメージ

製菓、製パン、マヨネーズ、惣菜等のメーカー



原料調達

※画像はイメージ

日本化工食品

造粒加工 焙煎加工 粉末加工 ブレンド

業務用粉体調味料・顆粒調味料

※2009年 日本化工食品(株)の全株式を取得(M&A)を行い、調味料業界へ進出。

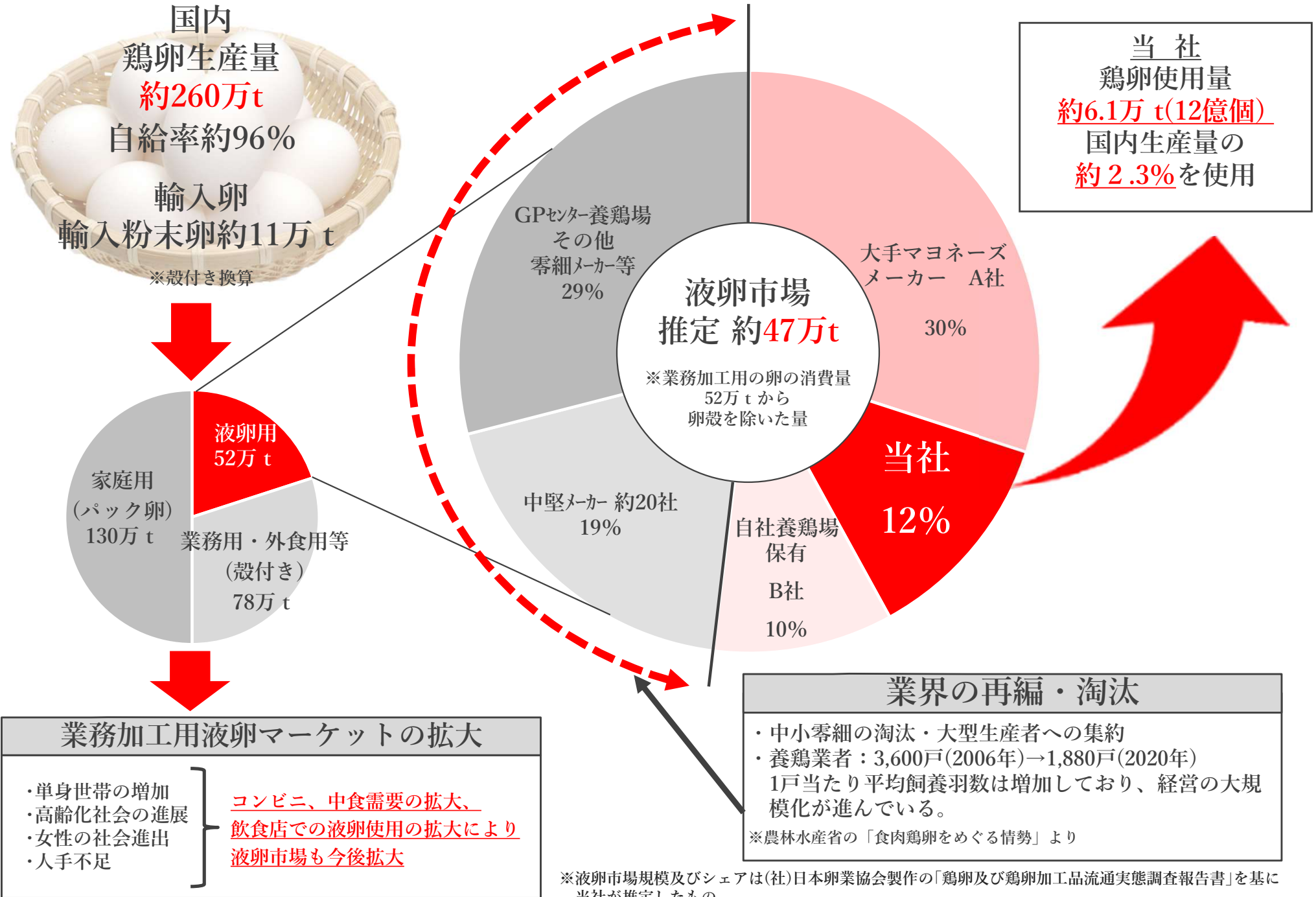
食品メーカー

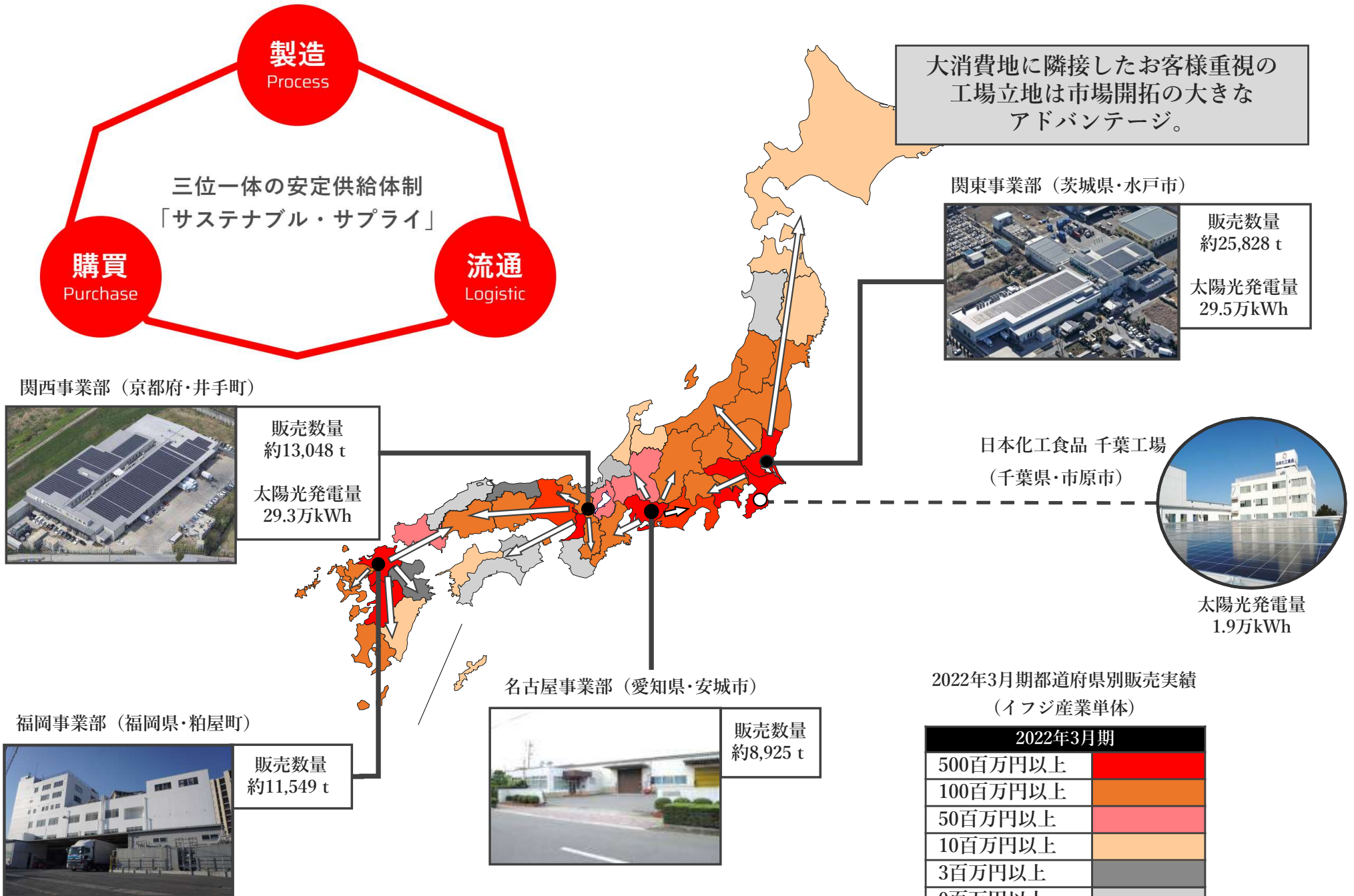
※画像はイメージ
即席麺、スナック菓子、ふりかけ等のメーカー

日本化工食品

卵白プロテインREVOPROの委託製造

ECサイト





※販売数量(イフジ産業単体)は、トン未満を切り捨てて表示しております。

STEP2
事業領域拡大

STEP1
購買・営業・製造の
3つの柱の強化

競争力強化

国内においても
持続的に成長可能

事業領域拡大

- ・ M&A
(業界の再編 同業他社)
- ・ 卵殻、卵殻膜の利用
- ・ 卵白プロテイン

管理強化

- ・ RPA、AI、IoT等の活用
- ・ 働きやすい環境への取組み
 - ・ 人財育成
- ・ 独自の管理指標による
数値管理

購買強化

- ・ 仕入拠点の拡大
 - ・ 委託生産の活用
 - ・ 輸入品の取り扱い
- ↓
- ・ 加工用原料の安定調達
- +
- ・ 需給調整機能の発揮
- ↓
- 原料の調達量と調達価格の
最適化

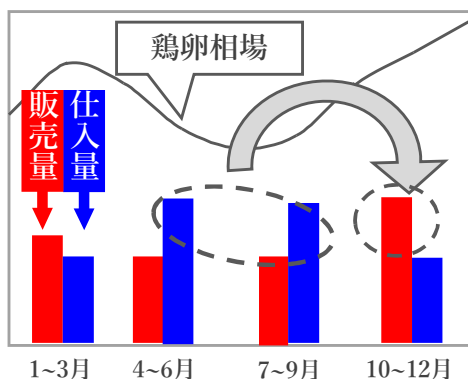
営業強化

- ・ 市場シェアの拡大
- ・ 付加価値の高い製品の
販売強化
- ・ サステナブル・サプライ
による食のインフラ構築
- ・ コモディティ製品の
競争力強化

製造強化

- ・ 6 S 活動の徹底
(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・節約)
- ・ 自動化・省力化
- ・ 食品安全マネジメント
システムの導入
- ・ 個々のスキルアップ

需給調整機能のイメージ

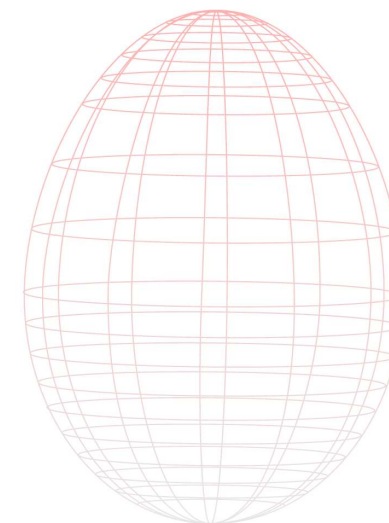


イフジ産業について



タマゴテックについて

業績について



タマゴテックとは…？

卵には多くの可能性が秘められています。

その「卵の可能性」をテクノロジー＝「タマゴテック」で切り拓き、従来の液卵の製造・販売に加え、新たな領域として進めています。



液卵の製造時に発生する卵殻・卵殻膜。(年間約6,000 t)

廃棄物となるこれらを従来はグラウンドのライン材、
チョーク、ロージンバック、土壌改良材等として活用。

現在の再資源化率73.7%
→2023年3月期以降、100%の再資源化が可能に。



— 高度な活用に向けて —

< 卵殻の活用 >



バイオアパタイト社へ
エッグアパタイトの原料供給



歯磨き粉や医療品原料、化粧品、吸着剤、
建材等へ活用

< 卵殻膜の活用 >



■加水分解性卵殻膜の特許取得を目指す

→加水分解性卵殻膜化粧品への活用

■卵白によるプロテイン

乳清由来の「ホエイプロテイン」と大豆由来の「ソイプロテイン」がほとんどを占める中、日本初となる卵白を用いたエッグホワイトプロテインを開発しました。

■アミノ酸スコア「100」

たんぱく質には、「必須アミノ酸」と「非必須アミノ酸」とがあり、摂食することでしか得られない必須アミノ酸の割合が多いほど「アミノ酸スコア」が上昇し、良質なたんぱく質とされます。REVOPRO®のアミノ酸スコアは最高の「100」となっています。

■乳糖不使用 —日本人の5人に1人は乳糖不耐症—

日本人の5人に1人は「乳糖不耐症」といわれており、ホエイ（乳清）プロテインを飲まれてお腹の調子がよくない方はこの乳糖不耐症の可能性があります。REVOPRO®は乳由来の成分を一切使用していません。

■人工甘味料不使用

年間12億個のタマゴを加工するイフジ産業の知見と日本化工食品の調味料製造で培ったプロの技術力によるコラボレーションにより、人工甘味料を一切使用せず、「安全」と「おいしさ」を実現。



■スプーン1杯(30g)で

タマゴ約7個分の卵白のたんぱく質

- ・たんぱく原料は「卵白」を100%使用
- ・100g当たり76.3gの高たんぱく質配合
- ・体内利用率*2は97.5%と良質なたんぱく質とされるホエイの90.5%よりも優秀*3

*2 体内利用率・・・消化・吸収されて体内で利用される割合

*3 Matsuoka et al. The Scientific World Journal 2017

■トッププロや格闘家も愛飲



「乳糖不使用」「たんぱく体内利用率の高さ」などの特長により高い評価をいただいております。IFBB（国際ボディビルダーズ連盟）のプロ選手である竹本選手、MIHARU選手、KANEKIN選手やRISE第6代ライト級王者の原口選手とスポンサー契約を結んでおります。



ご要望が多かったパウチタイプ包装の商品も発売中(内容量:1kg)

詳細はURLをご覧ください。

<https://revopro.jp/>





EGG WHITE PROTEIN

REVOPRO

REVOPRO

Since 1972

EGG WHITE PROTEIN

冠スポンサー決定!

2022 8.28 SUNDAY

REVOPRO PRESENTS TOKYO PRO
BELLSALLE SHIBUYA GARDEN

REVOPROが日本最大級のフィットネス団体『FWJ (Fitness World Japan)』の開催するボディビル・フィットネスコンテスト『TOKYO PRO』の冠スポンサーとなりました。

REVOPEOはトレーニングと健康な身体づくりに励むすべての方を応援いたします。

<https://fwj.jp/contest/tokyo-pro-2022/>

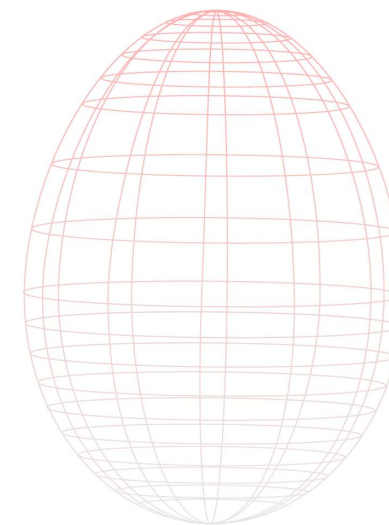


イフジ産業について

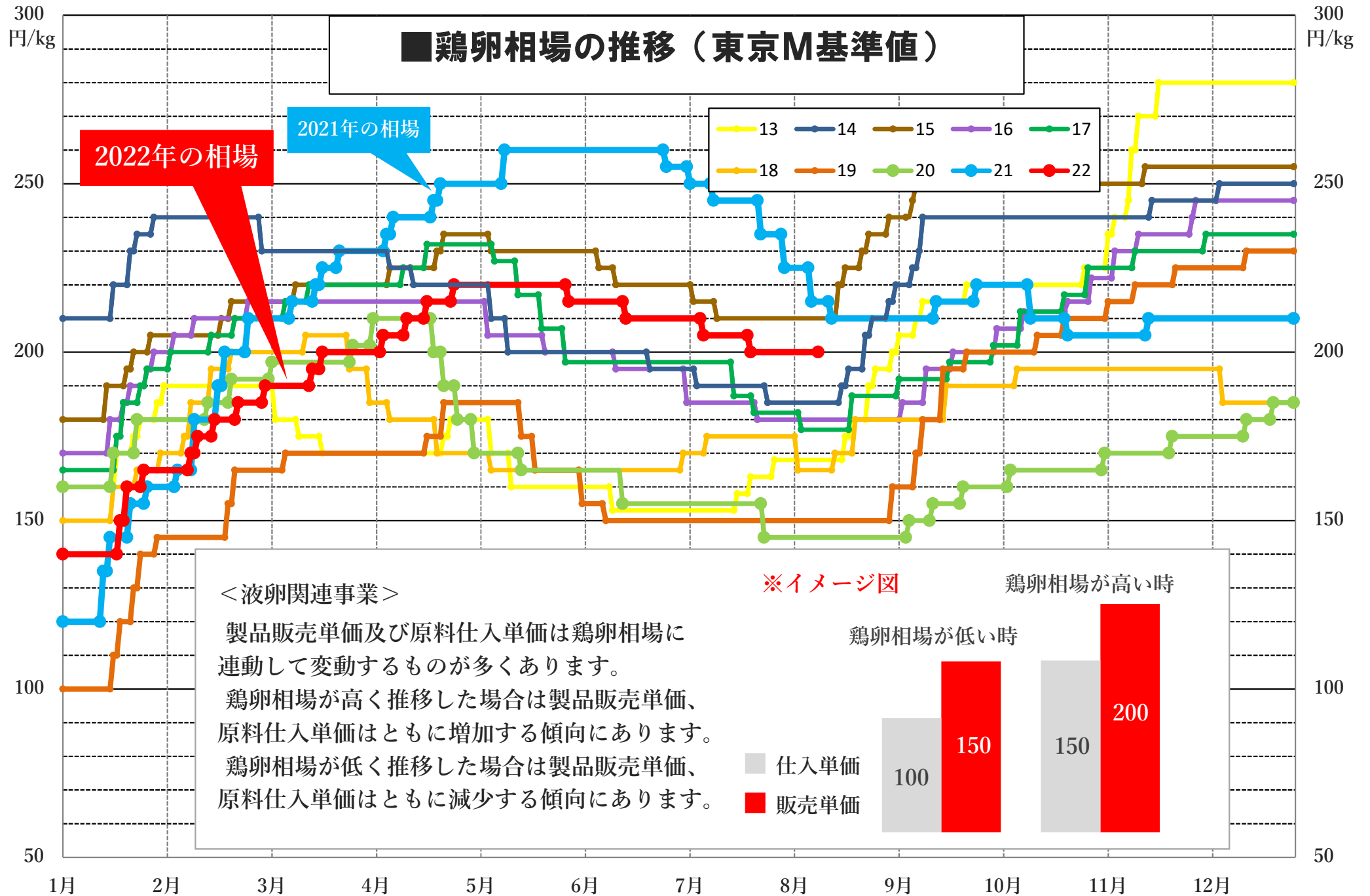
タマゴテック事業



業績について



鶏卵相場の推移 (東京M基準値)



2023年3月期第1四半期の決算の概要(連結)

■ 2023年3月期第1四半期

※百万円未満切捨て

	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	前年 同期比	
販売数量(t) (液卵関連事業)	14,996	15,515	+3.5%	最高
売上高(百万円)	4,652	4,523	▲2.8%	
営業利益(百万円)	387	401	+3.6%	最高
経常利益(百万円)	393	410	+4.2%	最高
親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	271	283	+4.3%	最高

■ セグメント別業績

※百万円未満切捨て

(※セグメント間売上含む)

	セグメント別 売上高		セグメント別 利益	
	百万円	対前期 増減率	百万円	対前期 増減率
液卵 関連事業	4,267	▲2.5%	378	+5.3%
調味料 関連事業	277	▲0.8%	18	▲20.5%
その他 (太陽光発電事業)	7	▲0.1%	4	▲11.1%

■ 販 売

・液卵関連事業

【販売数量】

昨年獲得した取引先や既存取引先への販売が順調に推移し、販売数量は第1四半期として過去最高を更新。

【売上高】

販売数量は増加したものの、前年同期と比較し、鶏卵相場(全農東京Mサイズ基準値)が▲15.2%(38円/kg)と低く推移しているため、売上高は前年同期比で▲2.5%となった。

・調味料関連事業

卵白プロテインの委託製造は順調に推移したものの、前年同期並みの▲0.8%となった。

■ 損 益

・液関連事業

販売数量の増加、鶏卵相場の低下に伴う仕入価格の低下、販売価格の値上げ、工場の生産効率向上や歩留向上による製造コストの抑制等により、前年同期比5.3%増となった。

・調味料関連事業

採用関連費用及び販売管理費及び一般管理費の増加により前年同期比▲20.5%となった。

第1四半期として、連結の営業利益、経常利益、四半期純利益は**過去最高**。

液卵関連事業の販売数量も**過去最高**。

■ 要約連結貸借対照表

単位：百万円 (百万円未満切捨て)		2022年3月31日	2022年6月30日	増減額
流動資産		6,824	7,088	+263
現預金		3,199	3,151	▲47
受取手形及び売掛金		2,254	2,466	+191
棚卸資産		1,336	1,447	+110
固定資産		4,934	4,966	+31
有形固定資産		4,704	4,730	+25
資産合計		11,759	12,054	+295
流動負債		2,863	3,083	+220
支払手形及び買掛金		667	807	+140
短期借入金		1,002	1,206	+204
固定負債		1,367	1,284	▲83
長期借入金		775	687	▲88
負債合計		4,230	4,367	+137
純資産合計		7,529	7,687	+158
負債純資産合計		11,759	12,054	+295
自己資本比率		64.0%	63.8%	

実質無借金経営

■ 2022年8月4日に業績予想の修正を実施

2023年3月期通期連結業績予想

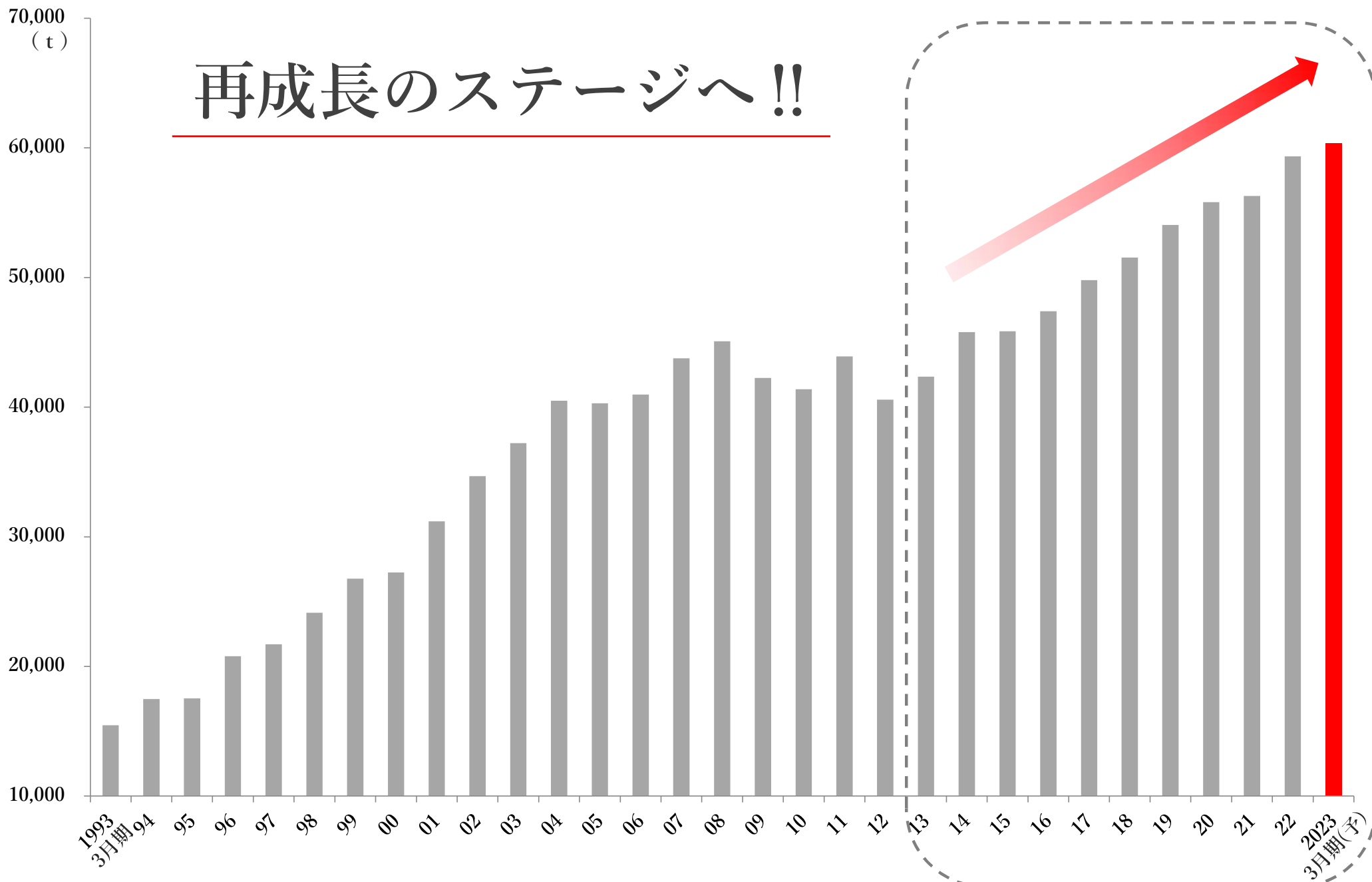
	当初予想	修正予想	増減額	増減率	
売上高 (百万円)	16,592	18,059	1,467	8.8%	最高
営業利益 (百万円)	1,333	1,333	—	—	最高
経常利益 (百万円)	1,358	1,358	—	—	最高
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	919	919	—	—	
1株当たり 当期純利益(円)	112.13	112.13	—	—	

売上高について、液卵関連事業において販売数量が順調に推移しており、今後も順調に推移すると予想。

また、鶏卵相場が予想よりも高く推移し今後もこの状態が続くと予想しており、鶏卵相場に連動する販売単価も高く推移すると予想。

なお、損益については、液卵関連事業において鶏卵相場に連動する仕入単価も高く推移すると予想するため、当初予想から変更なし。

売上高、営業利益、経常利益は過去最高の予想。



2023年3月期の販売数量は**11期連続**で増加し、**10期連続**で過去最高を更新の予想。
初めて60,000 t を超える見込み。

2023年3月期の見通し(連結)

※百万円未満切捨て

	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期(予)
販売数量 (t) 液卵関連事業	45,846	47,397	49,789	51,538	54,049	55,853	56,288	59,351	60,371
売上高 (百万円)	13,130	14,478	14,248	14,396	13,711	14,312	13,825	17,430	18,059
営業利益 (百万円)	517	642	663	693	806	928	1,184	1,325	1,333
経常利益 (百万円)	531	665	681	710	828	951	1,210	1,357	1,358
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	※1 388	434	533	555	552	614	830	996	919
1株当たり利益 (円)	46.58	52.21	64.04	66.67	66.28	75.20	101.63	121.46	112.13
自己資本当期純利益率	9.8%	10.2%	11.5%	10.9%	10.0%	10.5%	13.0%	14.0%	—
1株当たり配当金 (円)	11	15	(記念配当 17 1円を含む)	16	17	20	24	28	(記念配当 2円を含む) 32
配当性向	23.6%	28.7%	26.5%	24.0%	25.6%	26.5%	23.6%	23.1%	28.5%
配当利回り	2.0%	2.7%	1.9%	2.0%	2.4%	2.5%	2.5%	2.8%	—
時価総額	4,514	4,473	7,435	6,501	5,858	6,576	7,827	8,220	—

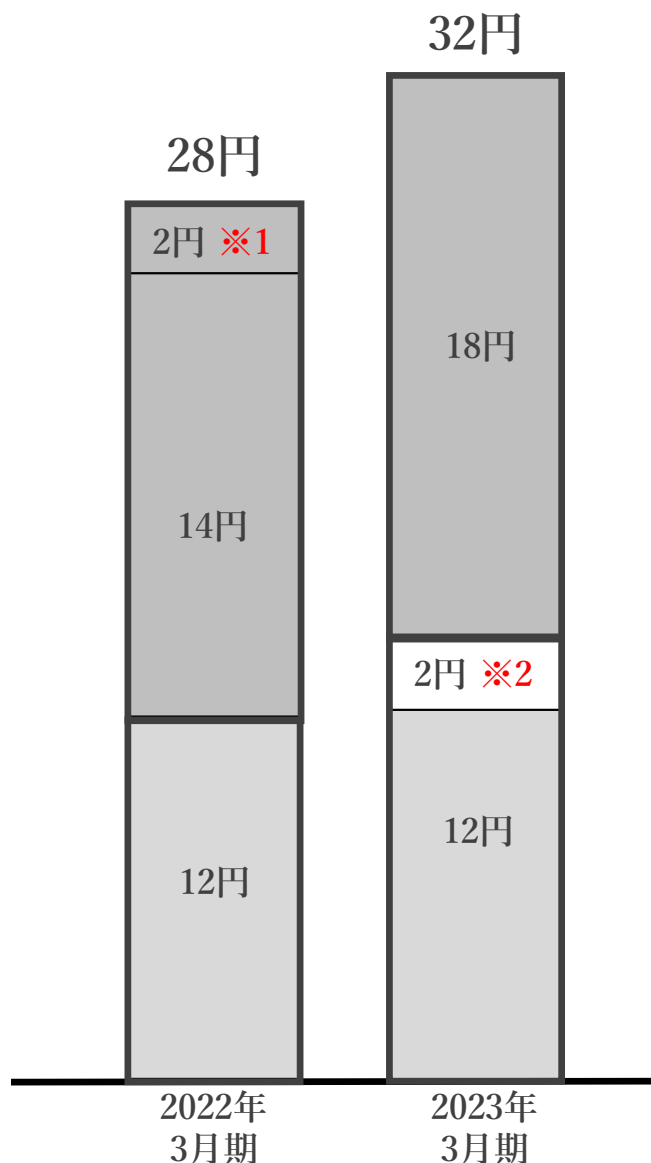
・ 2015年3月期以降 ※1 前年度下期から販売価格の改定や原料調達の安定化に努め、収益の安定化を図る取り組みを開始。

・ 2022年3月期 販売数量は9期連続で増加。売上高、営業利益、経常利益、当期純利益も過去最高を更新し、増収増益を達成。営業利益、経常利益は8期連続の増益、当期純利益は3期連続で最高益を更新。

・ 2023年3月期 販売数量は10期連続で増加中、売上高は2期連続で過去最高を更新する見込みで、営業利益、経常利益は最高益及び9期連続の増益を見込む。
2022年3月期はスケジューリングが可能となった将来減算一時差異について繰延税金資産の追加計上。
→法定実効税率と税効果会計適用後の負担率の差異により2023年3月期は減少の見込み。
中間配当14円、期末配当18円を予想。(中間配当は設立50周年の記念配当2円を含む。)

■ 期末配当

■ 中間配当 □ 記念配当



< 配当方針 >

株主の皆様に対する利益還元策として、
連結ベースで配当性向25～30%を目標としております。

< 2023年3月期の配当予想 >

年間配当金は前期より4円増配となる32円を予想。

中間配当 : 14円 (記念配当2円を含む)

期末配当 : 18円

合 計 : 32円

※1 2022年2月9日に2022年3月期の期末配当を14円→16円へ、2円の増配を発表。

※2 2023年3月期の中間配当は、設立50周年の記念配当として2円を予定。

業績予想に関する事項

この資料の数値のうち、過去の事実以外の計画、方針、その他の記載にかかわるものは、将来の業績にかかる予想値であり、いずれも、資料作成時点において当社が把握している情報に基づく経営上の想定や見解を基礎に算出されたものであります。

その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、万が一、この資料を利用した結果被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負いませんのでご承知おきください。



イフジ産業株式会社

Liquid egg / Frozen egg / Egg White Protein